

医療観光研究会(第1回)議事録【概要】

(日 時)平成30年6月29日(金) 19:00~21:00

(場 所)和歌山県民文化会館特別会議室B

(出席者)岡村座長、上野氏、片岡氏、坂本氏、寺下氏、豊田氏、南條氏、野尻氏、
藤田氏、山西氏、(JTB)吉田氏、吉田氏

(内 容)

- 開催挨拶 商工観光労働部長
- 出席者紹介
- 座長選任
- 議事

議題1 「医療観光研究会について」

資料1 (事務局より説明)

議題2 「Medical Tourism をめぐる国内外の動向」

資料2 (国際医療福祉大学大学院 岡村 世里奈 氏による講演)

議題3 意見交換(主なもの)

★ 医療観光の検討時期や必要性に関するもの

- ・今、何故「医療観光」なのか。2008年~2010年頃話題となるも、2015年以降、ほとんど話題になっていない。
- ・医療の需要と供給を考えた場合、長いスパンで議論をする必要。
- ・国民皆保険制度の根幹を揺るがす可能性。
- ・より大きな視点に立った場合、「医療観光」に取り組むことは必要。
- ・外国人の受け入れのためには、県内の医療機関や県、観光関連事業者のネットワークが大切。そういう意味で当研究会には期待。
- ・本県観光の成熟状況や、国外に対して医療ツーリズムに限らず、様々な旅行テーマを発信できる環境が整ってきた現在、将来的な医療の需要と供給を考えた場合に、このタイミングで「医療観光」の可能性を検討してはどうかという観点。
- ・先行事例の失敗例の反省を踏まえ取り組みば、意外に遅くないのでは。
- ・県内患者の医療ニーズだけに対応していると、外国人観光客の医療ニーズや医療観光への対応が困難。将来の本県の人口減少を考えると、今のタイミングで将来に向けて何をやっていくかということの検討を含め、動き出す必要がある。
- ・基本的には「医療観光」をやるという路線。この熟している機会にやるべきだが、やる

ためには何かの力が働かないと無理。それが今回の研究会だと思う。

★ 医療観光の方向性や課題に関するもの

- ・健康診断、人間ドックは稼働していない時に受入できるので、取り組みやすい。
- ・和歌山県はウェルネスツーリズムから取り組む方がいいように感じる。白浜や熊野は、ウェルネスに適しているように思う。
- ・ウェルネスの展開を「食」とか「農」という和歌山県の強みを絡めて行くと、大阪や東京ではできないものができる。
- ・ウェルネスは医療的見地から裏付けがあれば、コンテンツとして価値の高いものになる。医療観光の付加価値を高められて、良いものができるのでは。
- ・「メディカルトラベル」をやる場合は、ファシリテーターや医療通訳の育成等について、個々の病院で対応するのではなく、県が取りまとめていく必要があるのでは。

★ その他

- ・医療観光研究会での研究項目が4項目では少ない。項目を広げるべき。

(4項目) ①近隣国、途上国富裕層における医療需要 ②日本、本県における将来的な医療需要と供給 ③国内外の医療観光実施状況 ④医療観光を実施する場合に必要なインフラ

- ・外国人に対する医療では、「外国人就労者」に対する医療、保険も大事ではないか。
- ・外国人に日本の医療を売る場合、「治療」だけでなく「教育」という方法もある。医師や看護師などの医療従事者への「教育」提供に力を入れるのも一つ。